



Niihama ワーク・ライフ・バランス通信

今回は、8月18・19日に行われたNPO法人ファザーリング・ジャパン代表安藤哲也氏による「ワークライフバランス研修～父親が変われば、社会が変わる」の内容をご紹介します。



今回の研修はお父さんがメインターゲットです。

僕が楽天で働いていた頃、なんとなく休みが取りづらい帰りづらいといった雰囲気が出ていたので、自らが早く帰る雰囲気を作っていました。部下には家族や恋人との時間・趣味の時間を持ち人間らしい生活をするように、ダラダラ時間をかけても評価しないと申し渡していました。働き方を変えると効率が上がり、みんなが健康になるということだと伝えていました。今、僕は地域では色々な活動に関わっています。家の中でいい父親をするのではなく、どんどん地域に出て行っています。子育ては期間限定です。「子どもは地域へのパスポート」だと思っています。

東京では年収600万円なければ子供を育てられないと言われていますが、今の3

0代の平均年収は400万円。男性の収入だけではやっていけない時代になっています。専業主夫も増えています。女性のほうが高収入の場合や社会的に重要な地位にいる場合に、男性が家を守ることが増えています。父子家庭も増えています。例えば離婚した父親は家事が出来るようになって、働き方を大きく変えなければなりません。出張や残業が一切できなくなります。そういった父親に聞いてみると結婚していたころは仕事ばかりしていたと言います。その何がいけなかったのかが分からず、父親とはそうやって家族を養っていかなければならないと思っていたそうです。児童虐待も増えています。男性の意識を高めて、男性が育児に関わっていく雰囲気作りをすることで、子どもたちの笑顔につながっていきます。産後うつも10人に1人がかかっています。これも旦那さんが家庭に関わっていくことで防げるのです。

東京では23時台の終電が満員。7時間後にはまた通勤電車に乗って出勤していきます。このまま続けてもバラ色の未来が待っていないことに気づいた父親達が、近頃生き方を変えようとし始めました。勤勉は美德だが、長時間労働は美德ではありません。5m先の部長席に進むために何十年もかけて会社だけのために働き、家庭を犠牲にする働きかたをするべきではありません。

もう一つ、夫婦間の問題も子どもに現われやすい。小学校で問題を起こしている子の父親と話した時に、仕事でリストラに合い家庭で暴れていると打ち明けられました。





Niihama ワーク・ライフ・バランス通信

就職先が決まると、子どもに笑顔が戻り落ち着いたといいます。こういった子どもの問題は多くは家庭に問題があります。

また不仲な両親は恋愛のモデルになりません。ポジティブなイメージを持ってないまま大人になると晩婚化する傾向にあります。子供に幸せな結婚をしてもらおうと思うのなら、自分が幸せになること。人への思いやりや愛情は自分が満たされていないと持てません。家庭を重要視すること。家は寝るために帰る場所ではなく、チームメイトがいる場所なのです。家には自分の居場所がないと言う父親がいます。家が home (家庭) でなく、away (敵地) になっている父親が増えています。自分が帰りたくなるような居場所作りを自分でしてください。家事を女性だけの仕事と思わないこと。何か一つでも家族が笑顔になれる役割を持って下さい。家族は同じ船の乗組員です。お父さんはお客さんではなく、主力のクルーなのです。小さいころに父親が関わった子どもは思春期になっても父と子で普通に会話ができます。子供のクラスメートの名前や幼稚園の先生の名前を言えますか。地域と関わっていると、地域や学校に愛着がわいてきます。子育てのミッション (最終目標) は、子どもを一日でも早く自立させること。いい大学に入れることではありません。自立が最終目標です。

専業主婦の労働価値を年収に換算するといくらになるかという記事が日経新聞に載っていました。いくらだと思いませんか? (300万円～500万円という参加者の回答。) 正解は1,300万円。ダスキンの料

金表、ベビーシッターの料金表にあてはめた金額です。それだけの労働をしているのに、「おいビール」「おれの飯」と言っている場合ではありません。

実は本当にパパがしなければいけないのは、子どもの世話ではなく、子育てを主力でしてくれているママのケアなのです。ママがいつも泣いていたり、夫に不信感を持っていたりすると、子どもに影響が出ます。夫婦で向き合い、会話する時間を作ること。業務連絡だけで終わらせない。子どもの話だけで終わらせないこと。パパとママが自分らしく生きていることが、子どもに最もいい影響を与えます。

もっとお父さんが家で笑っていること。「仕事は大変だけどお前達がいるから頑張れるよ。」と言いながらビールを飲む姿を見て子どもは安心するのです。また自分と自分の父親との関係を見直すこと。父親から虐待を受けて育つと、子どもを男だからと殴って育てたり、男だから泣くなと言って精神論で育てています。そうやって育てられた子は大人になった時にポキンと折れてしまうことが多いんです。奥さんの前では泣いてもいい。それを許し合える関係になってください。またママ達の話を知っていると、多くは旦那さんとの関係で悩んでいる、あるいは自分自身のこと悩んでいる人が多い。社会と断絶して自分の名前だけで生きていないという感覚を持っています。妻の話を知る時には黙って聞いてあげて大変だったね、分かるよと共感して認めてあげて下さい。ママに寄り添うことが大事なのです。





Niihama ワーク・ライフ・バランス通信

男性のしている家事で一番多いのはゴミ出し。内容を聞くと、妻がくくったゴミ袋をはいと渡され、ゴミステーションまで運んでいると言います。これはゴミ移動であってゴミ出しではありません。また日本の男性は家でした家事をいちいち自慢することが多いのは、男性の心のどこかに「手伝ってやっている」という意識があるからです。自分も昔そうして自慢していたことがありましたが、妻に2回家出されて初めて気づきました。今はお互いにやれるほうが動く、言われる前に動くと言われている関係がうまくいっています。

子どもが産まれたらOSを最新版に入れ替えましょう。自分の父親のやり方を踏襲する傾向がありますが、Windows95（父親世代の考え方）だと強制終了をかけなければならなくなる＝離婚を言い渡されることとなります。父親業は楽しいこと、権利なのです。週末に帳尻合わせをするのではなく、毎日10分でもいいから子育てに参加してください。

子育てをしていると、時間管理・コミュニケーション・人材育成が楽になります。また子育てに大事なものは妻とのパートナーシップと地域との関係。父親がどんどん子育てに関わっている家庭に二人目、三人目と子どもが生まれる傾向にあります。父親が家で良く会話をすると、社会のルールや情報を子どもが学ぶことができます。

仕事の組織の中だけで生きるのではなく、育児や地域に関わって能力を高めていくと生きていくことが楽しくなります。お父さんの笑顔が子どもにとって最高の教育。子

供にお父さんみたいになりたいと思わせること。今日本の中高生の6割以上が未来に希望がないと答えています。それを変えるのは父親一人一人の笑顔です。イクメンが注目を浴びているのは、社会的な構造、子育てが困難になっている状況、国のOS、社会のOSを変えていかなければならないことが分かってきているからです。

子ども達は未来の親です。20年後、30年後の新居浜を支える人間です。次世代を作る、我が家のプロジェクトXを進めてはどうですか。また運動会で我が子だけにビデオカメラを向けるのではなく、パパ友と一緒にテントを組み立てたり、障がいを持っている子がクラスメイトとうまくやっているかということに目を向けて下さい。そういう笑っている、**家庭でも地域でも笑っている父親になってください**。家庭、地域、社会全体にもいい影響があります。新居浜が四国で一番子育てするのにいい市と言われる都市になると、社会的資産価値が上がるんですよ。そのキーパーソンは一人一人の父親です。

子どもに誇れる仕事をして、子どもに誇れる人生を送ってください。まずは父親が楽しむことです。**父親が変われば、新居浜が変わります**。

発行：新居浜市男女共同参画課

